平川市産米の収益向上への取組

～ 物価高騰支援と輸出拡大で、持続可能な米づくりを～

1. 米を取り巻く現状と課題

① 米価は上昇傾向

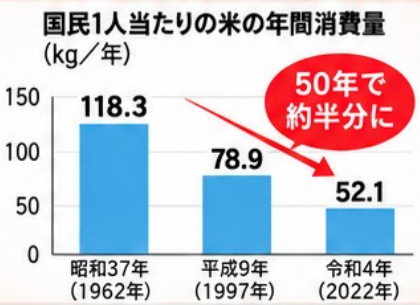
インバウンド需要の回復などより青森県産米の概算金は上昇傾向。



② 生産コストの増大

肥料や燃料代などの高騰により生産費が増加し、農家の収益は減少。

2. 国内の米需要は減少傾向



3. 青森県産米の輸出は拡大



4. 一般質問の主な内容と質疑応答

(1) 米農家への物価高騰に対するさらなる支援



肥料や燃料費の高騰で米農家の収益が厳しい。令和５年度に実施した農業薬剤費・光熱動力費高騰対策支援事業を、令和６年度も継続し、補助単価の引上げや追加支援ができないか。他に考えている支援策があれば伺いたい。



物価高騰は円安や国際情勢により、農業資材の価格が上昇している。市では国・県の交付金を活用し支援を実施している。今後も物価や農作物価格の動向を注視し、限られた財源を有効に活用できるよう、状況に応じて適切に判断していく。



令和４年度産米の生産費は60kg当たり15,273円（全国）で、概算金では赤字となる。令和６年度も支援の継続と、さらなる追加支援の検討を要望する。

(2) 米の輸出拡大



国内の米消費は毎年約10万トンずつ減少している。七戸町ではクボタグループと連携し、「まっしぐら」をシンガポールに輸出している。当市でも同様の取組ができないか。実施に向けた課題も含め、見解を伺う。



国は輸出用米を経営所得安定対策交付金の対象として推進している。当市でも取組農業者はいるが、取扱業者の取扱数量が限度に達しており、現状では限定的である。県は2028年度までに輸出用米の作付面積1,000ヘクタールを目標に、本格的に輸出拡大に着手していく。



県とタイアップした販路拡大の現状と課題は。グローバルGAPを取得した柏木農業高校の取組と連携し、海外へのおにぎり提供などで認知度向上やニーズ調査を行うことも検討してほしい。



県のPR効果もあり、青森県産米の輸出は堅調に推移している。市独自の取組は行っていないが、地域特性を生かしたブランド化や特別栽培米などの高付加価値化を進め、状況に応じて輸出用米の販路拡大を検討していく。

5. 今後の方向性（市の考え方）

支援の継続・検討



国・県の交付金を活用し、必要に応じて追加支援を検討

高付加価値化



地域ブランド化
特別栽培米などで
高付加価値化

輸出の拡大



県と連携し
国内外の販路拡大を模索

人材育成・連携



柏木農業高校との
連携強化
国際認証取得の活用

6. 平川市産米の収益向上に向けたイメージ

① 生産コストの抑制



肥料・燃料費の低減
スマート農業の導入 など

② 高品質・高付加価値化



良質米地帯の強みを生かし
ブランド化・特別栽培米

③ 販路拡大（国内・海外）



県と連携した輸出拡大
マーケットインの戦略

④ 地域の未来へ



- 農家の所得向上
- 持続可能な米づくり
- 平川市の農業の発展